

7. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北陸)	◎	商店街（代表者）	販売量の動き	・今月も中国人のインバウンド需要を中心に好調な売上を達成することができた。能登半島地震の影響で多くの展示を休止していた美術館が前月再開したこともあり、人通りが震災前に戻っている。
	◎	都市型ホテル（役員）	来客数の動き	・各地でイベントやスポーツ大会が開催され、個人予約、団体予約が好調に推移し、新型コロナウイルス感染症発生前を上回る稼働率となっている。また、客室単価の上昇もあいまって、単月売上は過去最高となっている。
	○	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・前年と比べて土日がそれぞれ1日少ない曜日周りであったが、売上は月全体では前年から10%超増加の見込みである。お中元の受注は、能登半島地震での家屋損壊の影響により、依頼主及び届け先共に件数が減少して売上が低迷したが、インポートブランドの売上がお中元のマイナス分を補填しただけでなく、全体をけん引し、好調に推移している。
	○	家電量販店（店長）	販売量の動き	・気温が高く、電気代を少しでも安くしたいという消費者心理から、省エネ性能のある高付加価値エアコンの販売が好調である。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・今月中旬から1か月間夏休み親子向けイベントが開催されているが、暑い日が続いたこともあり、休日以外は人通りが少ない。最近の傾向として宝飾品や高級服を扱う商店の売上が伸びていないようである。
	□	一般小売店〔事務用品〕（店長）	来客数の動き	・客の購入方法が以前と比べ、ネット通販へと変化している。
	□	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・天候不順などもあり、客の買物に対する姿勢は依然として慎重である。
	□	家電量販店（本部）	販売量の動き	・パリオリンピック開催を前に、テレビの販売が好調である。補助金のある給湯器も継続して良い状態である。来客数、販売数量も回復している。
	□	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新車販売量が相変わらず増えていない。自動車は高額商品のため、購入に際しては身の回りの景気状況をうかがって慎重になっているという声がある。
	□	乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・客から自動車の購入希望があっても、メーカーの生産枠が決まっているため受注扱いにできず、今年の売上につながらない。
	□	自動車備品販売店（役員）	お客様の様子	・天候にも左右され、週末イベントを開催するものの売上単価が上がらず、客は最低限の必要品購入に抑えているようである。例年の冬タイヤ購入に対しても慎重な様子がみられる。
	□	その他専門店〔酒〕（経営者）	来客数の動き	・とにかく来客数が少なくなり、店頭販売がほとんどない状態の日が多々ある。業務用の方は好調のようであるが、店頭販売が全く駄目である。
	□	その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	来客数の動き	・売上は前年並みであるが、販売単価が上昇しているため、販売数自体は落ちている。
	□	一般レストラン（統括）	お客様の様子	・3か月前の4月も好調で、その状態を維持している。
	□	観光型旅館（経営者）	販売量の動き	・新幹線開業以来、販売量が新型コロナウイルス感染症発生前の2019年を上回っている。
	□	観光型旅館（経理）	それ以外	・能登半島地震の損害により、営業再開のめどがまだ立っていない。
	□	都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・コロナ禍からの回復の伸びが、前年は超えているものの、前月に引き続き、予算を下回っている。
	□	旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・予約は堅調だが、上向きとまではいえない。
□	タクシー運転手	来客数の動き	・7月の後半から夏休みに入り、家族連れの客や観光客が増え、好調である。また、最近の暑さの影響でタクシー利用が増えている。	

□	タクシー運転手	来客数の動き	・今は他の魅力ある観光地へ移っているようで、観光客が減っている。
□	通信会社（職員）	お客様の様子	・物価が高くなることで企業への負担が増しており、状況は変わらない。
□	通信会社（役員）	販売量の動き	・通信、放送共に契約者数が前年同期と比べて若干下回っている状況が続いている。また、解約数も前年より増えている。
□	通信会社（役員）	販売量の動き	・新規契約の獲得状況、既存客の解約状況に大きな変化はない。
□	テーマパーク（役員）	来客数の動き	・前年同月と比べると、個人客の来客数がやや落ち着くなかで、法人、団体の来客数がやや増加傾向にある。全体としては横ばいで推移している。
□	その他レジャー施設 [スポーツクラブ]（総支配人）	お客様の様子	・子供の夏季特別教室の受付実績が目標の90%になったが、大人会員の入会がほとんど増えない。
□	美容室（経営者）	お客様の様子	・来客数の減少が続く状況に変わりはないが、5万円から10万円もする美容器具の販売数が伸びている。結果として売上は維持できている。
□	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・住宅の販売価格の高騰による販売数の伸び悩みと商談の長期化がみられる。
□	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・展示会の来場者数は増えているが、住宅着工数の増加に結び付かない。
□	住宅販売会社（営業）	来客数の動き	・展示場への来場者数が3か月前と変わらない。
▲	商店街（代表者）	来客数の動き	・北陸新幹線敦賀延伸に合わせて開店した新店舗のにぎわいも一段落で、通常の状態に戻りつつある。今まで人出を敬遠していた常連客も戻ってはきているが、今一つ勢いが無い。
▲	一般小売店 [精肉]（店長）	来客数の動き	・パリオリンピックが始まってから、少し客足が少ない。牛肉の高価格帯商材の動きが悪く、豚肉の動きは良いことから、低単価なものに流れる形で売上が伸び悩んでいる。
▲	一般小売店 [書籍]（従業員）	販売量の動き	・来客数は横ばい、販売量は微減が続いている。
▲	百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・猛暑が午後の来客数に大きく影響している。高齢者を中心に平日の来店者が減っている。また、アパレルを中心にバーゲンセール企画を行っているが、例年、価格が安いから、クリアランスセールだから、という理由で売れていたものの売上が厳しく、むしろ、接触冷感、肌触りが良い、日焼け防止、といった機能や素材に特徴がある商品が売れている。
▲	百貨店（販売担当）	お客様の様子	・セール期の価格低下、猛暑による需要拡大を期待したが、購買拡大には全くつながっていない。購買行動が価格中心で、より慎重さが増している。また、当社とはマーチャンダイジングなど業態の違いはあるが、近隣に初のショッピングモールがオープンした。低価格訴求と、前回のショッピングモール出店から20年以上たっているという目新しさから、県民の多くがショッピングモールに流れた傾向はある。
▲	スーパー（店長）	販売量の動き	・物価上昇、価格上昇に賃金上昇が追い付いていない。果物等の嗜好品の動きが鈍い。
▲	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・暑い日が続いており、外出を控える人が増えてきている。
▲	スナック（経営者）	来客数の動き	・前月よりも客足が少なくなった。7月後半はパリオリンピックの観戦などがマイナスの要因となり、この状態が続くと考えられる。ただし、駅前周辺は若者で盛り上がっているということである。当店周辺は閑散としている。
▲	競輪場（職員）	競争相手の様子	・競輪車券収入が落ち込んでいる。
×	コンビニ（店舗管理）	単価の動き	・平均客単価が前年比では5%以上減少している。最近では客の節約志向で、ここ数年なかった客単価の下落がみられる。

	×	衣料品専門店 (経営者)	単価の動き	・酷暑ということもあり、夏はどうしても高単価商材は敬遠されがちである。したがって、客単価が低くなっている。
	×	住関連専門店 (役員)	来客数の動き	・セールやイベントを実施したときは一時的に来客数が増えるものの、通しでみると、確実に全体のボリュームが減っている。
企業 動向 関連	◎	—	—	—
(北陸)	○	食料品製造業 (経営企画)	受注量や販売量 の動き	・能登半島地震で被災して半年余り、復旧不能となった工場も一部には残っているが、おおむね震災前の生産活動が可能な状態に戻ってきている。しかし、一旦ストップした受注はなかなか戻らず、おおよそ前年比8割程度にとどまっている。
	○	建設業(経営 者)	それ以外	・繁華街の客が増えている。
	○	輸送業(管理会 計担当)	受注価格や販売 価格の動き	・物量の増加は余りみられないが、少しずつではあるが運賃 改定が進んでいる。
	○	輸送業(経理)	受注価格や販売 価格の動き	・2024年物流問題の対応のため実施する高速道路の往復使用 について、客先が徐々に理解を示してくれ、運賃改定がおお むね実現できたのは良かった。しかし、諸経費の高騰が継続 しているため楽観はできない。
	○	通信業(営業)	受注量や販売量 の動き	・リース、レンタル型よりも設備投資型の受注量が旺盛であ る。特に新工場建設等の需要が増加している。
	○	金融業(融資担 当)	受注量や販売量 の動き	・業種を問わず、全般的に収益改善の企業が増加傾向にあ る。コロナ禍を本格的に脱し、能登半島地震の影響も回復基 調にあり、品不足の解消、輸送の正常化、原材料及び経費高 騰の価格転嫁が進んでいる様子である。
	○	司法書士	取引先の様子	・会社設立、取締役増員に関する依頼が多くなっている。
	○	税理士(所長)	取引先の様子	・定額減税とボーナス支給の影響があるのか、特にB to C の業種で業績が良い。一方で、製造業は厳しい状況が続いて いる。
	□	繊維工業(総 括)	受注量や販売量 の動き	・能登半島地震の被害により稼働できていなかった工場も再 開し、生産高は既に震災前程度に回復しているが、本格復旧 工事に係る費用負担が重くのし掛かっている。
	□	化学工業(総務 担当)	受注量や販売量 の動き	・売上が変わらずに推移している。
	□	一般機械器具製 造業(総務担 当)	受注量や販売量 の動き	・国内の工作機械の受注量はほぼ横ばいで推移しており、引 き続き同様の動きをするとみている。
	□	電気機械器具製 造業(営業担 当)	受注価格や販売 価格の動き	・引き続き、民生品、産業機器共に受注が低迷しており、受 注額が維持できているのは自動車関係の製品のみになっている。 また、客からの発注見込みに関してもほぼ変動がなく、 いまだ低いレベルの発注が続くような状況である。
	▲	金融業(融資担 当)	取引先の様子	・資材価格等の高騰を受け、県内の建設需要が停滞してい る。川上となる生コン出荷量の減少状況は下げ止まらず、付 随する設計、地盤工事、電気工事などの関連業種も受注に苦 戦している。また、人材確保の困難や電力等の経費増加によ り厳しい状況が続いている。
	×	—	—	—
雇用 関連	◎	—	—	—
(北陸)	○	—	—	—
	□	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・長期にわたる積極的な求人は少ない。
	□	職業安定所(職 員)	求職者数の動き	・高齢者の新規求職者数は引き続き増加しているが、若年者 の求職者数は増えておらず、かつ、求職活動にも余裕があ る。求職者数全体として見れば大きな変化はない。

□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求職者数、有効求人倍率、就職者数等に大きな変動はみられないが、有効求人数は令和6年3月の9680人から、製造業を中心に3か月連続して徐々に減少し、令和6年6月現在で8750人となり、前年同月比も3.8%の微減となっている。円安による原材料費、燃料費、光熱費等の高騰が影響している。
□	民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・人材不足の業界は、以前からマッチング成立の厳しい状況が変わっていない。
▲	人材派遣会社（役員）	周辺企業の様子	・製造業を中心に、現在人材を派遣している取引先企業を訪問すると、忙しい企業、忙しくない企業それぞれあるが、1年前と比べると人材不足のひっ迫感は和らいでいる。
▲	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・製造業関連の求人広告の出稿が減少している。
×	—	—	—